

— SYMBIOSIS<共生> —

自然と共に生き、社会と共に生きる



CONTENTS

目次、当社の足跡	P01
CSR 基本姿勢	P02
社長あいさつ、経営理念	P03
テーマ一覧	P04
環境経営、環境保全活動の実績	P05
環境目標、環境会計	P06
事業活動における環境負荷	P07
サプライチェーンにおける環境負荷低減の取り組み	P08
従業員とのかかわり、社会貢献	P09
コーポレート・ガバナンス	P10
ニイタカの SDGs マッピング	P11
ニイタカと SDGs	P12

「環境・社会報告書 2021」について

2006 年から発行しております本報告書は、当社の環境保全活動及び社会的側面に関する情報を積極的かつ誠実に開示し、企業活動の透明性を高めるとともに社会に対する責務を明確にすることを目的としています。報告項目の選択に際しては、環境省「環境報告ガイドライン（2018 年度版）」を参考にしました。

報告対象組織

当社の全事業所（本社・6 営業所・2 工場）について報告しています。
（グループ会社については含んでおりません。）

報告対象期間

2020 年 4 月 1 日 ～ 2021 年 3 月 31 日（2020 年度）を対象期間としています。

発行時期

2021 年 9 月（次回発行は 2022 年 9 月を予定）

当社の足跡（環境保全活動の取り組み）

- 1964 年 生分解性の高い界面活性剤を主成分とした業務用液体食器用洗剤「マイソフト」を発売
- 1989 年 つくば工場建設（排水基準に厳しい規則がある霞ヶ浦の南西部に立地）
- 1997 年 びわ湖工場建設（排水基準に厳しい規則がある琵琶湖の東部に立地）
- 1999 年 高濃度（6 倍希釈タイプ）液体食器用洗剤「スーパーサラセン」を発売
- 2000 年 詰め替え用製品（パウチタイプ）の洗剤を発売
- 2005 年 ISO14001 認証取得
- 2008 年 高濃度（4.5 倍希釈タイプ）パウチ包装液体食器用洗剤「マイソフトコンク」を発売
- 2009 年 つくば工場に太陽光発電システムを導入
高濃度（5 倍希釈タイプ）パウチ包装厨房機器・設備用洗浄剤「厨房コンククリーナー」を発売
- 2013 年 つくば工場に太陽光発電システムを増設
ハイブリッド車の導入を開始
- 2016 年 高濃度（6 倍希釈タイプ）パウチ包装液体食器用洗剤「ローヤルサラセン」を発売
- 2017 年 ハイブリッド車の導入率が 50%を超える
- 2018 年 高濃度（5 倍希釈タイプ）パウチ包装厨房・店舗用洗浄剤「ケミファインクイックすすぎ」を発売
- 2021 年 「リフガード ふいて消臭＆ウイルス除去」を発売



CSR 基本姿勢

— SYMBIOSIS<共生> —

自然と共に生き、社会と共に生きる

社会に役立つのはもちろんのこと自然にも優しい製品づくりを目指す当社の基本姿勢です。
当社は、経営理念「四者共栄」のもと、高品質・高使用価値の製品・サービスを
フードビジネス業界に提供することを通じ、「取引先とユーザー」のお役に立ち、
「株主と会社」に利益をもたらし、「社員とその家族」を幸せにすると同時に、「地域社会」に貢献し、
社会に信頼され、発展する企業を目指します。

社長あいさつ

日頃から当社の活動にご理解を賜りありがとうございます。改めて御礼申し上げます。

当社は、創立から20年経過した1983年に、経営理念「四者共栄」を決定しました。高品質・高使用価値の製品・サービスを提供することを通じ、「取引先とユーザー」のお役に立ち、「株主と会社」に利益をもたらし、「社員とその家族」を幸せにすると同時に、「地域社会」に貢献し、社会に信用され、発展する企業を目指す。これを一言で「四者共栄」と表しています。

昨今、SDGs(持続可能な開発目標)がクローズアップされていますが、その基礎となる考え方は当社の理念に含まれるものであり、社会の動きに先行して取り組んできたと考えています。その一例はパウチ包装フィルム入りの高濃度食器用洗剤です。洗浄に有効な成分のみを運んで、お客さまの使用現場において水で薄めればCO₂の発生を抑制できます。近年、廃棄プラスチックによる海洋汚染が国際的に問題化していますが、高濃度食器用洗剤の場合は希釈用のポリ容器があれば都度容器の廃棄がなくなります。この点は、持続可能な社会実現のための課題と位置づけ、パウチ製品出荷重量を「サステナビリティ指標」としました。

また、工場から発生する廃棄物排出量の削減を環境目標に掲げ、つくば・びわ湖両工場の廃棄物排出量削減にも取り組んでおります。

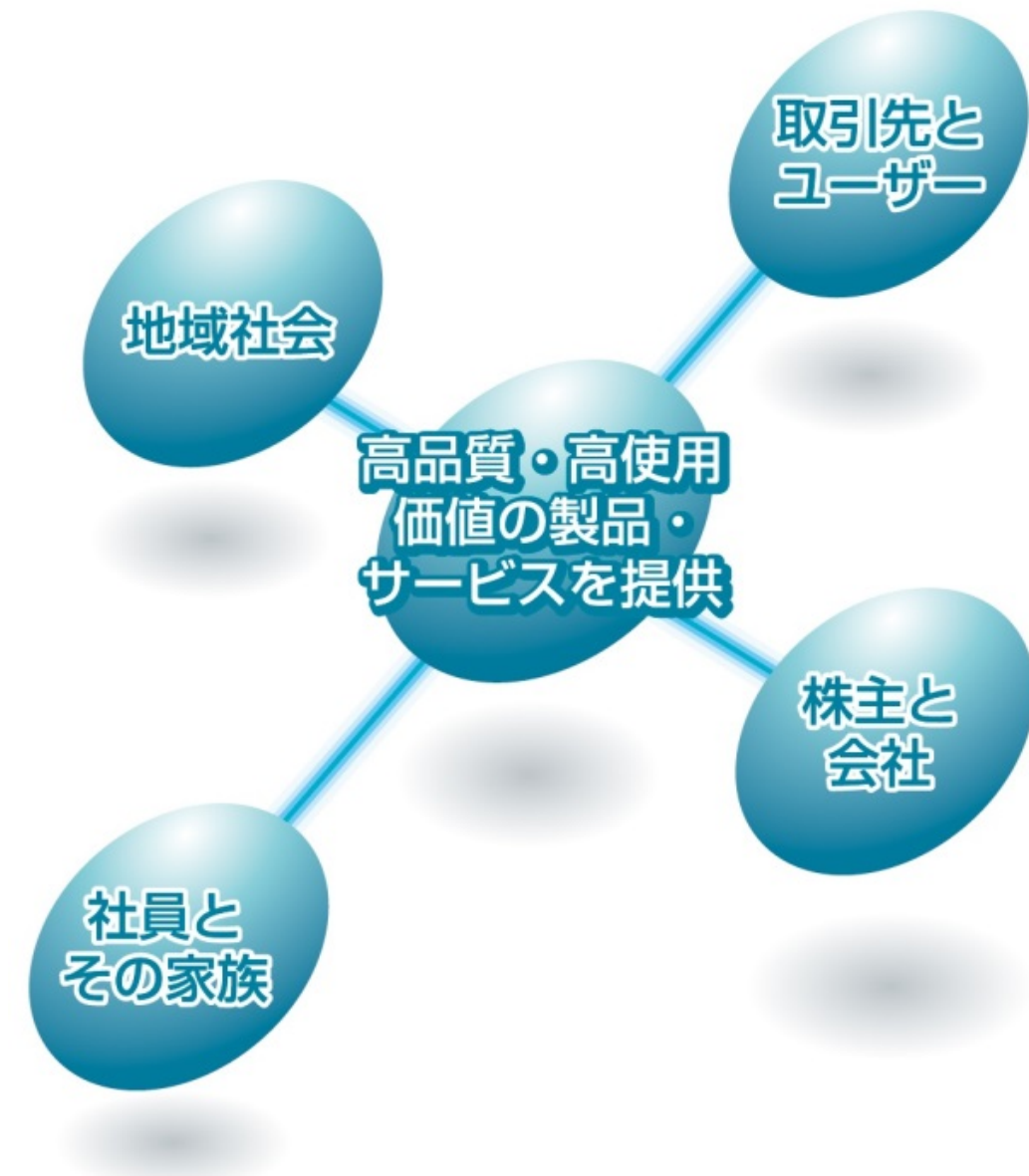
環境への配慮について申し上げてきましたが、他にも社員の働き方の問題をはじめ様々な課題がございます。全世界に影響を与えた新型コロナウイルス感染症は、世間の生活様式さえも変化させました。今後当社を取り巻く状況は大きく変化することと思いますが、経営理念を忘れず、SDGsの諸目標も踏まえて、社会に必要とされる企業を目指して努力していきます。

当社は、規模ではまだまだ小さく、社会的な影響力も大きくはありませんが、創立以来、環境への配慮をポリシーとして活動してまいりました。当報告書は、この一年間の活動をまとめたものです。皆様からの忌憚ないご意見を頂戴できれば、謙虚に受け止め、経営に活かしていきたいと考えております。一層のご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 奥山 吉昭
2021年9月

経営理念 -四者共栄-

当社は、高品質・高使用価値の製品・サービスをフードビジネス業界に提供することを通じ、「取引先とユーザー」のお役に立ち、「株主と会社」に利益をもたらし、「社員とその家族」を幸せにすると同時に、「地域社会」に貢献し、社会に信頼され、発展する企業を目指しています。



経営方針「品質第一主義の経営」

高品質・高使用価値の製品やサービスでお客様にお応えすることは勿論のこと、地域環境・地球環境保全に努めると共に、業務や企業のあり方においても品質を第一とし、社会進歩に役立つ経営を行います。「品質第一主義の経営」なくして、企業の存続発展はあり得ません。よって、私たちは、すべての質の向上を目指して邁進します。



テーマ 01 環境

- ・省エネルギー化の推進
- ・操業における廃棄物削減
- ・環境負荷の少ない製品開発
- ・包装資材の省資源化
- ・使用済みポリ容器のリユース
- ・原料のサステナブル調達
- ・プラスチックスマートへの参加
- ・モーダルシフトへの移行



テーマ 02 人と社会

- ・被災地支援
- ・働きやすい職場作り
- ・ストレスチェック
- ・地域清掃活動
- ・仕事と家庭の両立支援
- ・自己啓発制度



テーマ 03 コーポレート ガバナンス

- ・内部通報制度
- ・内部監査
- ・リスク管理の推進



テーマ 01 環境

環境経営

当社では、環境方針の中で、「活動及び製品・サービスの提供において、地球環境、地域環境の保全を推進する」ことを宣言し、全社的に環境保全活動に取り組んでいます。

環境方針

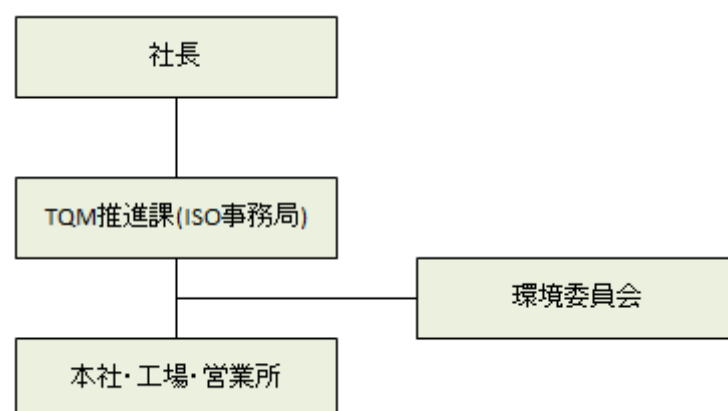
活動及び製品・サービスの提供において、地球環境、地域環境の保全を推進する

私たちは、地球環境、地域環境の保全を経営の重要な課題として強く認識し、活動及び製品・サービスの提供において、環境上の法規制要求事項並びに私たちが同意する協定等の順守はもちろんのこと、汚染の予防、省資源・省エネルギー、循環型社会形成、地域社会への貢献を通じて自然及び地域社会との共生を図ります。

(2013 年 6 月 1 日改訂)

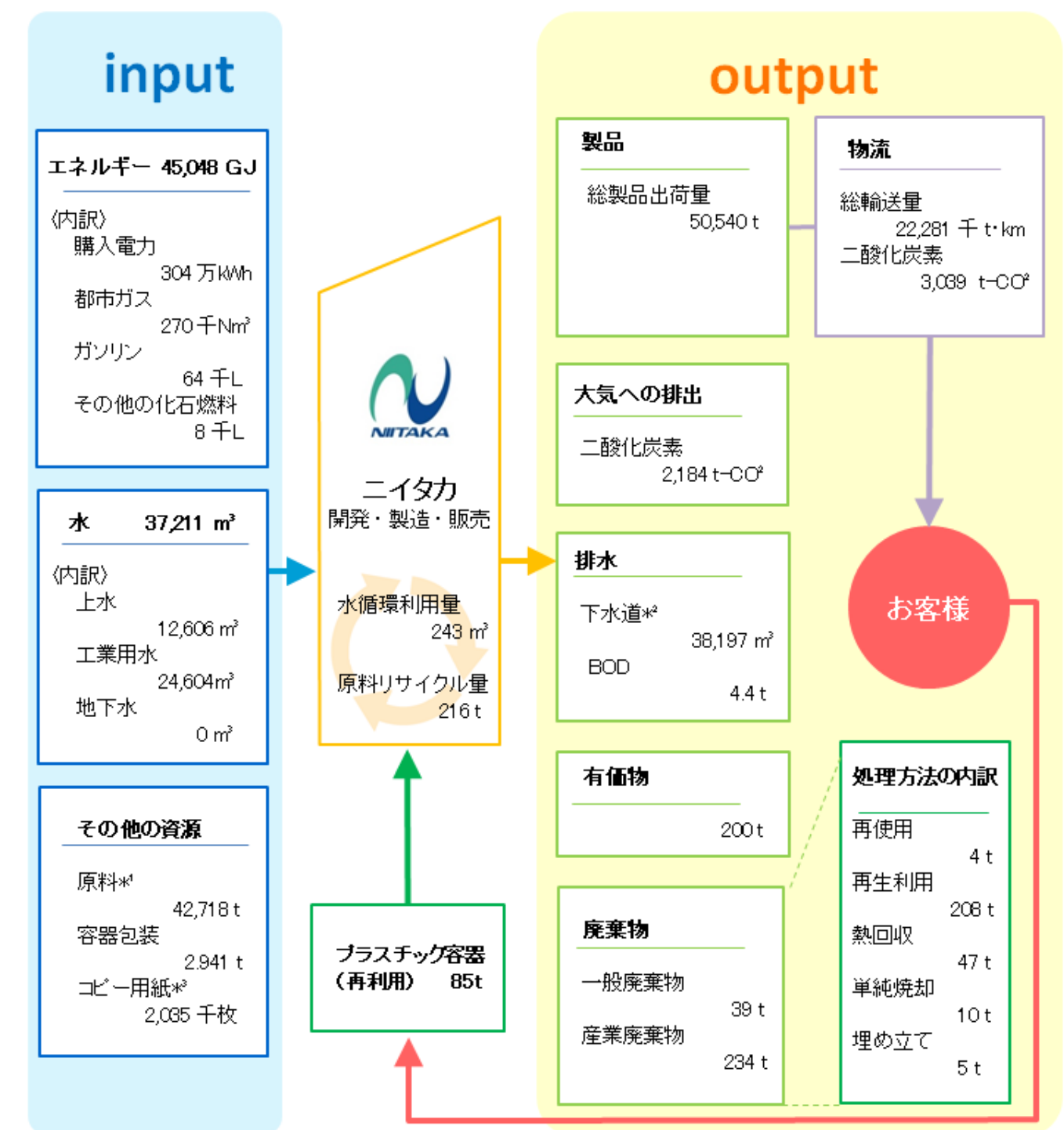
環境マネジメント体制

経営トップの指揮のもと環境保全活動を組織的に展開するために、各部門の代表者からなる環境委員会を定期的に開催しています。環境委員会では、環境保全に関する全社年間計画の立案、対策実施の指示及び進捗状況の確認をしています。体制は以下の通りです。



環境事業活動における環境負荷

環境負荷状況を把握するため、エネルギーなどの投入量(INPUT)、廃棄物などの排出量(OUTPUT)を定期的に測定しています。測定したデータは、主に環境保全活動の目標を設定する際の基礎データとして活用しています。



*1 原料として使用した水は原料に含まれます。
*2 雨水の流入が含まれています。
*3 A4用紙に換算して算定しています。

用語説

GJ(ギガジュール):10⁹ジュール(熱量の単位)
BOD:水中の有機物が微生物によって分解されるときに消費される酵素の量

環境保全活動の目標

事業活動に伴って発生する環境負荷の低減を目的とした環境目標を毎年設定し、その達成に向け活動しています。

2020 年度は省エネルギー、廃棄物削減の両項目ともに、目標を達成しました。また、実績値では、昨年度(2019 年度)も下回る結果となりました。これは、コロナ禍における工場の稼働状況がコロナ禍以前と比較すると大きく変動したためです。

2021 年度の稼働状況も不透明ではありますが、目標値は変更せず、引き続き環境負荷低減に取り組んでまいります。

区分	項目		管理指標	2020年度			2021年度
				目標	実績	評価	目標
資源節約の取り組み	省エネルギー	全社の省エネルギー活動の推進	総エネルギー使用量	58,000 GJ 以下	45,048 GJ	◎	58,000 GJ 以下
環境負荷低減の取り組み	廃棄物削減	生産活動に伴う工場からの廃棄物削減	廃棄物排出量	273 t以下	253t	◎	273 t 以下

◎: 目標達成 ○: 目標達成率95 %以上 △: 目標達成率70 %以上 ×: 目標達成率70 %未満

環境目標(2020 年度実績と評価、2021 年度目標)

資源節約の取り組み: 省エネルギー

2019 年度実績

52,750GJ

評価◎

2020 年度実績

45,048GJ

評価◎

2021 年度目標

58,000GJ

環境負荷低減の取り組み: 廃棄物削減

2019 年度実績

271t

評価◎

2020 年度実績

253t

評価◎

2021 年度目標

273t

環境会計

環境保全にかかるコストと効果を定量的に把握し、環境経営の実践に役立てるため、2007 年度より環境会計を導入しています。2020 年度の実績は次表のとおりです。

環境保全コスト (単位: 百万円)

分 類		主な取り組みの内容	投資額	費用額
①	事業エリア内コスト			
	内 訳			
	公害防止コスト	除害設備及び排ガス燃焼装置の運転・維持など	0	5
	地球環境保全コスト	省エネ設備の導入など	7	16
	資源循環コスト	廃棄物の処理など	0	13
②	上・下流コスト	プラスチック容器の回収・再生など	0	39
③	管理活動コスト	ISO14001の認証維持、環境報告書の作成、緑化・美化など	0	0
④	研究開発コスト	環境配慮製品の開発など	0	0
⑤	社会活動コスト	-	0	0
⑥	環境損傷対応コスト	-	0	0
⑦	その他コスト	-	0	0
合 計			7	74

環境保全対策に伴う経済効果 (単位: 百万円)

内 容	金額
有価物の売却益	1
有価物化による廃棄物処理費用の節減額	4
原料のリサイクルによる原料費及び廃棄物処理費用の節減額	24
プラスチック容器のリサイクルによる購入費用の削減額	47
合 計	76

汚染を予防する取り組み

当社では、環境への負荷が大きい工場を中心に汚染を予防する取り組みを進めています。

PRTR対象物質の排出量・移動量等の状況(2019年度) (単位: t)

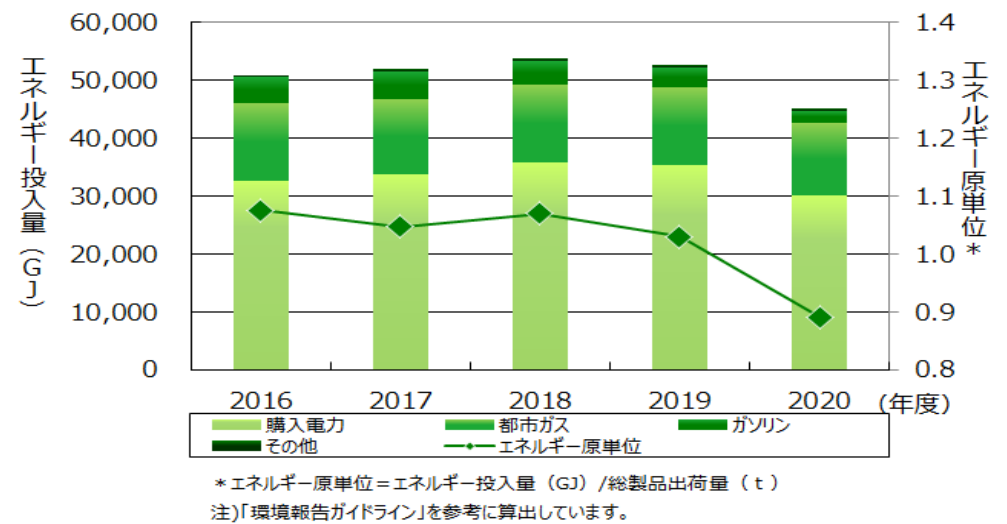
物 質 名		取扱量	環境への排出量			移動量	
			大気	公共用水域	土壌	下水道	廃棄物
全社	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	1,002	0	0	0	0.282	0
	ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル	352	0	0	0	0.089	0
	2－アミノエタノール	52	0	0	0	0.023	0
	N、N－ジメチルドデシルアミン＝N－オキシド	26	0	0	0	0.012	0
	エチレンジアミン四酢酸	18	0	0	0	0.006	0
	ドデシル硫酸ナトリウム	16	0	0	0	0.002	0
	ポリ(オキシエチレン)ドデシルエーテル硫酸エステル	61	0	0	0	0.007	0
	合 計	1,529	0	0	0	0.422	0

* 四捨五入して記載しているため、合計重量が一致しない場合があります。

資源節約に向けた取り組み

当社では、省エネルギー、省資源に重点を置いて取り組んでいます。

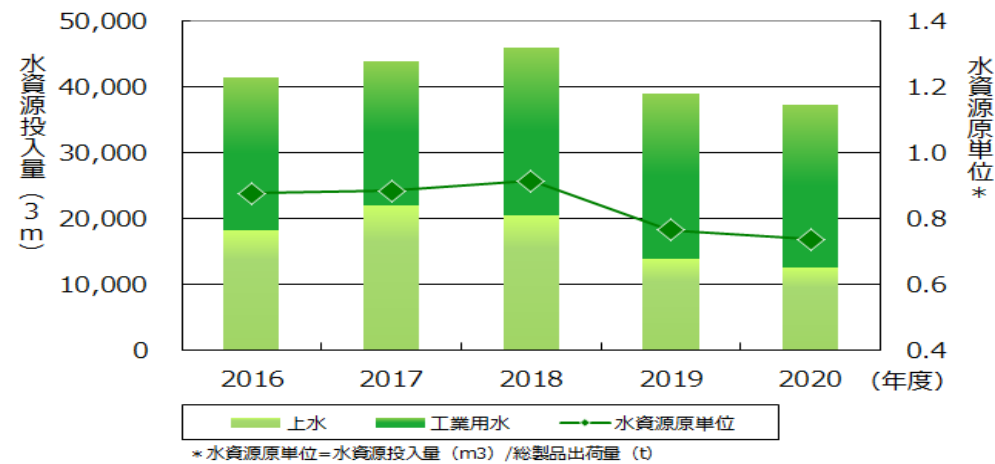
総エネルギー投入量及びエネルギー原単位の推移



〈省エネルギー〉

工程の改善や省エネルギー活動を進めています。2020年度は、コロナ禍の影響で総生産量が落ち込んだためエネルギー原単位は例年と比較し、大きく減少しました。

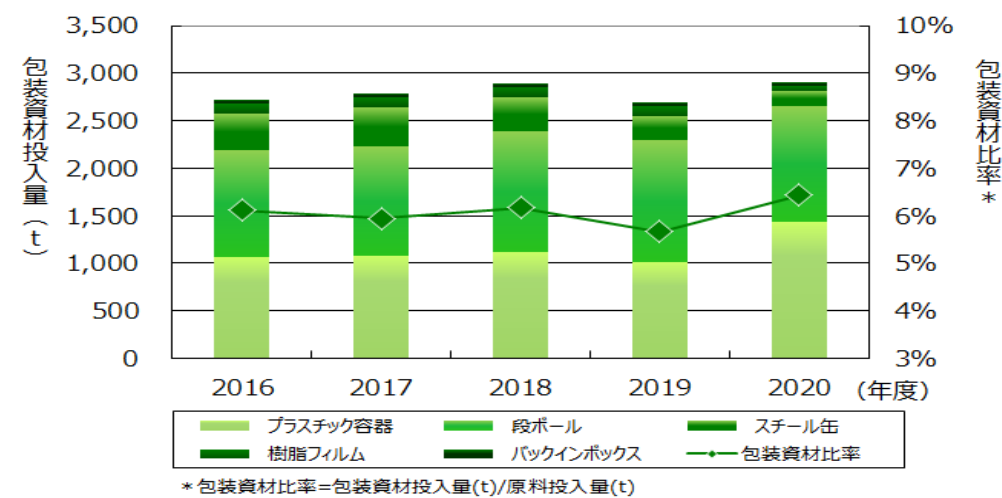
水資源投入量及び水資源原単位の推移



〈節水〉

当社では製品出荷量に対する水資源の投入量比率(水資源原単位)の低減に努めています。

包装資材投入量及び包装資材比率の推移



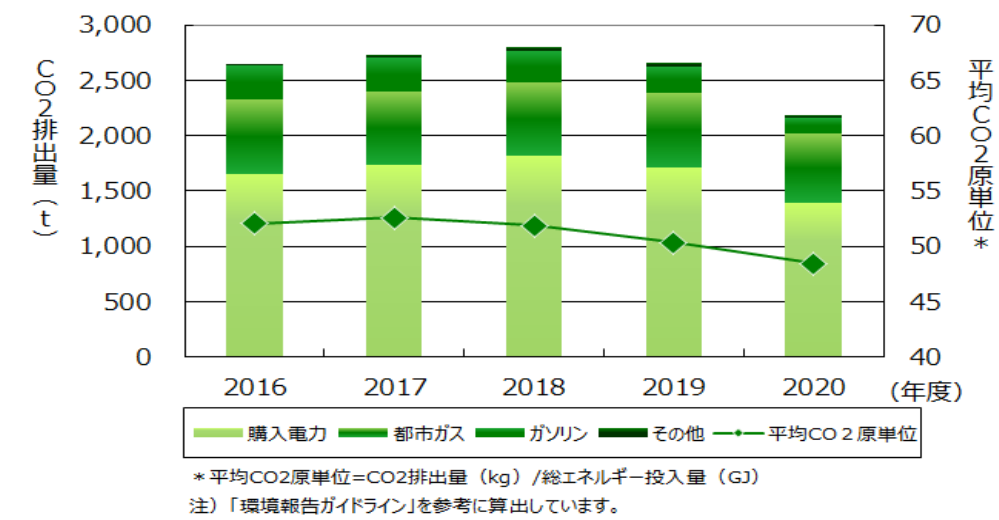
〈省資源〉

軽量の包装資材の導入など、製品の容器・包装の見直しによる包装資材比率の低減に努めています。2020年度は、アルコール製品などプラスチック容器を包装資材とする一部製品の製造に偏ったため、包装資材比率が増加へと転じました。

汚染を予防する取り組み

当社では、環境への負荷が大きい工場を中心に汚染を予防する取り組みを進めています。

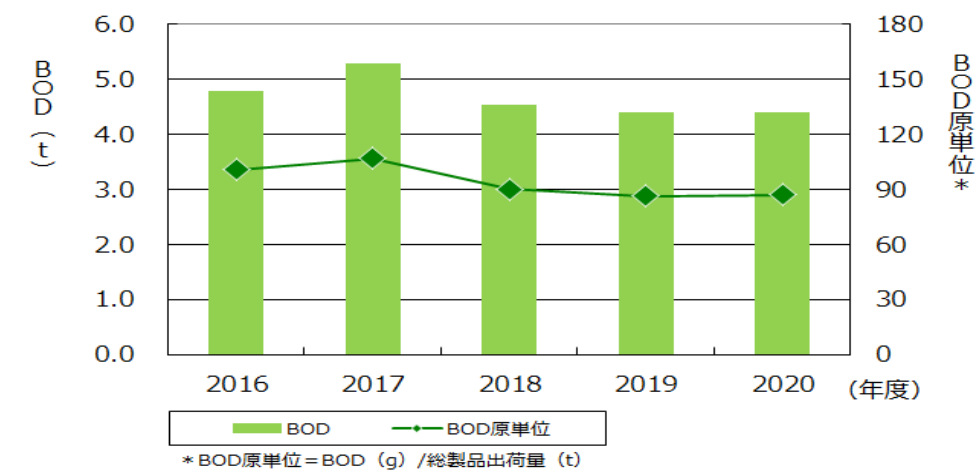
CO2排出量及び平均CO2原単位の推移



〈地球温暖化防止〉

地球温暖化に影響を及ぼすCO2排出量を抑制するため、総エネルギー投入量の削減に努めています。

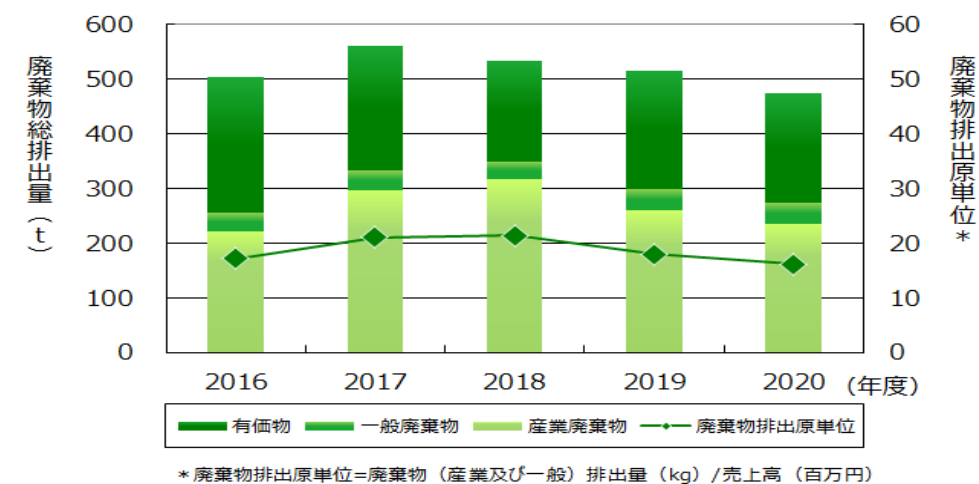
BODとBOD原単位の推移



〈水質汚染防止〉

工場では、排水に含まれるBOD成分や動植物油、窒素やリンなどの成分を低減するため、洗剤の製造設備(調合槽や配管、容器に詰めるための装置)の洗浄に使用した水を極力回収し、再利用しています。

廃棄物等総排出量及び廃棄物排出原単位の推移



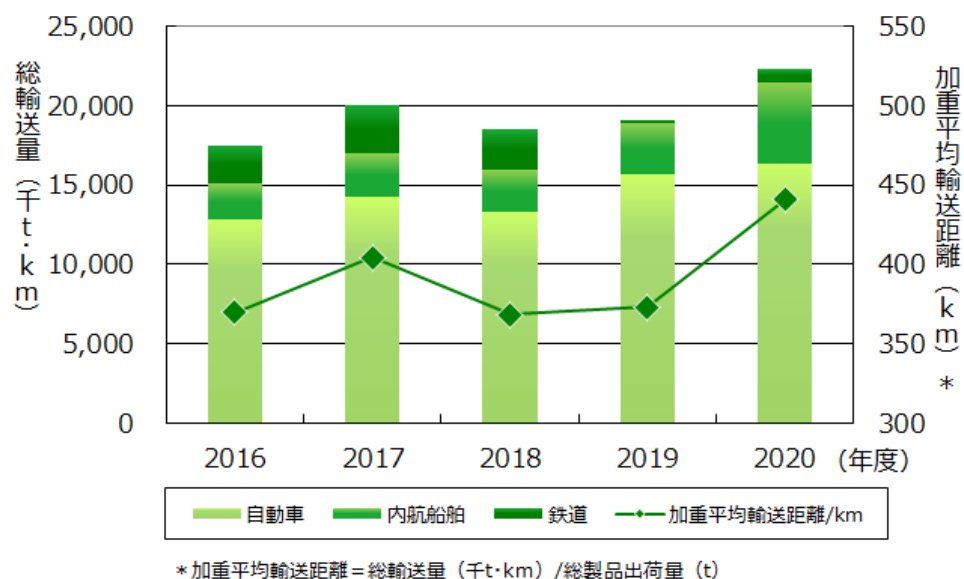
〈廃棄物処理〉

廃棄物の発生抑制とより環境負荷の少ない処理に努めています。また、廃棄物を処理する際には、より環境負荷の少ない方法で最終処分をするように契約を適宜見直しています。

サプライチェーンにおける環境負荷低減の取り組み

当社は原材料を購入して製品を製造し、お客様にお届けしています。特に原材料などの購買と製品の輸送における環境負荷低減をサプライチェーンの中でも重要なテーマと考え、重点的に取り組んでいます。

総輸送量及び加重平均輸送距離の推移

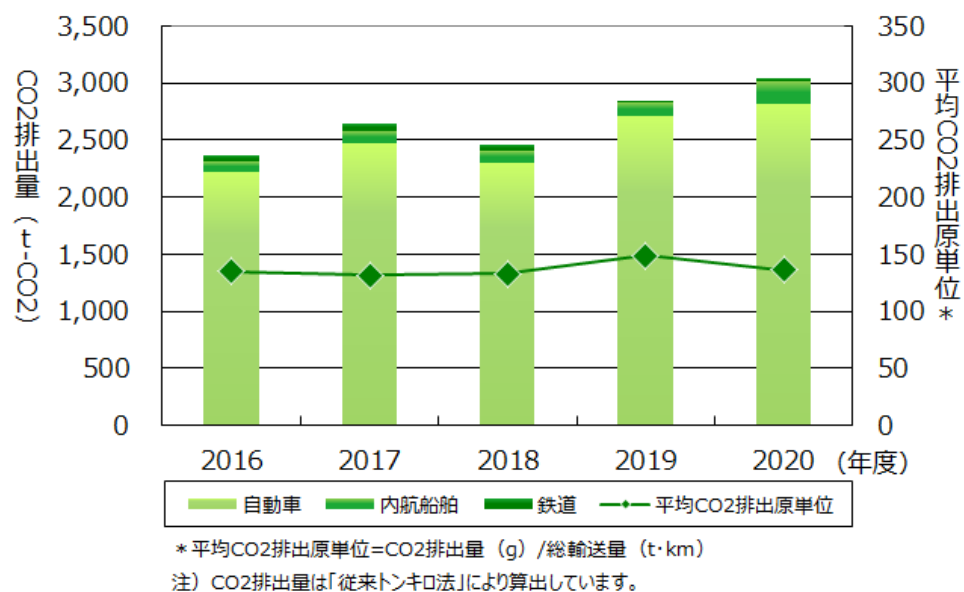


＜総輸送量の抑制＞

2020年度は、コロナ禍の影響でアルコール製品の需要が大きく、製品をより早くお客さまのもとにお届けするため、通常行っておりました、お客様に近い工場・倉庫からの出荷を見合わせました。このため、工場から遠方に輸送する頻度が多く、例年と比較し輸送距離が増える結果となりました。

今後も、モーダルシフトに取り組む総輸送量の抑制に取り組んでまいります。

製品の輸送におけるCO2排出量及び平均CO2排出原単位の推移



＜CO2の抑制＞

2020年度は既述の通り、工場から直接遠方まで輸送する状況が多かったため、CO2の排出量も、例年と比較し多くなりました。

今後も、輸送におけるCO2排出量がより少なくなるように、お客さまにより近い工場・倉庫から製品を出荷しています。

特集記事その1 -PlasticsSmart への参加-

当社は創業以来、環境に負荷をかけない操業を目指してきました。製品ではコンクタイプ洗剤やパウチ包装の採用、操業においては太陽光発電の導入、ハイブリッド社用車導入などを行ってきました。

こうした取り組みを続けるとともに、2020年12月にはPlasticsSmartに賛同し、取組を登録しました。当社製品の包装資材のうちプラスチック容器が占める割合は、重量換算で約37%です。リサイクル可能な段ボールケースが約46%ですので、プラスチック容器の使用量を減らす取組はまだまだこれからと考えております。

今後も、省資源、省エネルギーを実現する製品を提供してまいります。



特集記事その2 -コロナ禍における製品開発-

世界に影響を与えた新型コロナウイルス感染症への感染予防対策として、従来から提供してまいりました手指消毒用のアルコール製剤を、より多くのお客さまに提供すべくこの1年間、尽力してまいりました。

また、感染予防対策として広く認知されたアクリル製パーティションの洗浄・除菌を目的とした「リフガード ふいて消臭&ウイルス除去」も他社に先駆けて提供しております。この製品は、アクリルなどアルコールを噴霧することで傷んでしまうような材質の洗浄と除菌を目的としたノンアルコールの中性洗浄剤です。従来のお客さまであるレストランチェーンだけでなく、座席・ひじ掛けなど車内環境のウイルス対策にも効果があるため、交通にかかわるお客さまにも広くご使用いただいております。

今後も、お客さまの役に立つ製品開発を進めてまいります。





テーマ 02

人と社会

■ ワークライフバランスに関する支援

理想的なワークライフバランスの実現に向けて、様々な活動を行っています。

育児や介護をする従業員が安心して働けるよう、休業や短時間勤務に関わる制度などを整備しています。2020 年度の育児休業の取得率は、女性従業員は 100%を維持し、男性従業員の取得実績もありました。

また、作業時間を短縮するための生産設備や情報システムの導入を積極的に推進しています。

■ こころとからだの相談窓口

従業員と配偶者及び被扶養者を対象に、職場内の悩みや、子育てなど家庭内の悩み、業務外の傷病等に関する相談ができる窓口を社外に設置しています。当相談室は、電話等による相談や面談によるカウンセリングが無料で受けられるものです。従業員の不調に早期に対処し、会社として心身のケアに努めてまいります。

■ ストレスチェック

昨年に続き、本年も実施しました。産業医と連携しながら、従業員のメンタルケアに努めています。

■ 従業員とその家族の健康維持・増進を支援

従業員とその家族の健康維持・増進、リフレッシュ、自己啓発、育児介護のサポートなどを目的に会員制福利厚生サービスに加入しています。

また、永年勤続休暇制度を導入し、入社後 10 年おきに 5 日間の連続休暇を従業員に付与しています。

■ 安全衛生教育・啓発活動

新入社員研修のプログラムに安全衛生に関する教育を組み込むなど、従業員の安全確保、健康の維持・増進に対する意識の向上に努めています。工場では特に作業上の安全のための留意事項をわかりやすく資料にまとめ、雇入れ時教育に活用し、理解の促進を図っています。

また、経営陣による各作業現場の安全パトロールや全従業員を対象とした小冊子での安全衛生学習などを実施しました。

■ 健康診断

従業員の健康維持・増進のため、毎年全事業所で健康診断を実施しています。生活習慣病健診は法令で定められた年齢(35 才以上)よりも低い 30 才以上の従業員を対象としています。

また、45 才以上の男性従業員には前立腺がんの PSA 検査を、女性従業員の希望者には子宮がん・乳がん検診を実施しています。

また、必要に応じて再検査の支援も行っています。

■ 地域清掃活動

各事業所では、地域社会への貢献、地域環境の美化を目的として清掃活動に取り組んでいます。

■ 被災地支援

自然災害に見舞われた地域の復興を願い、消毒用アルコールや手洗いハンドソープなどの衛生用品の寄付などを行っております。

■ 感染予防

テレワーク、時差出勤制度を導入しています。社内各所の日常的なアルコール消毒、ソーシャルディスタンスの確保等、様々な感染症予防策を実施しています。

■ 安全運転啓発活動

営業車輛にドライブレコーダーを取り付け、安全運転の意識向上に役立てています。急発進・急停止など不安全な運転をしていないか、記録をもとに運転技術の向上に努め、交通違反・事故ゼロを目指して取り組んでいます。

■ 防災活動

びわ湖・つくば両工場では毎年、小型消火器・屋外消火栓による消火訓練や、担架を使った負傷者搬出訓練を実施しています。

■ 労働災害防止活動

安全衛生に対する意識向上のため、危険予知トレーニングや 5S の再徹底などさまざまな活動に取り組み、労働災害の撲滅に努めています。





テーマ 03 コーポレート ガバナンス

コーポレートガバナンスに関する取り組み

当社は、取締役会、監査等委員会、会計監査人、監査室及びコンプライアンス等を統括するCSR委員会等の各組織機関が相互に連携し、さらには内部通報制度も設け、内部統制システムが有効となるよう努めております。コンプライアンスの推進については、「倫理方針」「倫理規程」に基づき、取締役及び使用人がコンプライアンスを自らの問題としてとらえ業務執行にあたるよう努めております。

取締役会は、定時取締役会を1ヶ月に1回、臨時取締役会を随時開催し、取締役会規程に定められた付議事項について十分な審議を行っております。また、執行役員を招集して行う執行役員会を月例で実施し、取締役会の方針に基づく経営執行上の重要事項の審議を迅速に進めております。

■ 内部統制システムの整備

当社は、当社グループの経営理念を実現し、継続的に企業価値を高めることを目指しております。「コーポレート・ガバナンス基本方針」を定め、方針に則った活動を行うことで、経営効率の向上及び経営の健全性の向上に努めております。

■ 内部通報制度

「内部通報制度規程」に基づき、社内の不正行為、違法行為及び犯罪的行為等の通報に対し適切に対応してまいります。内部通報システムの適切な運用を維持することにより、法令違反その他のコンプライアンス上の問題について適切な報告体制を確保しております。

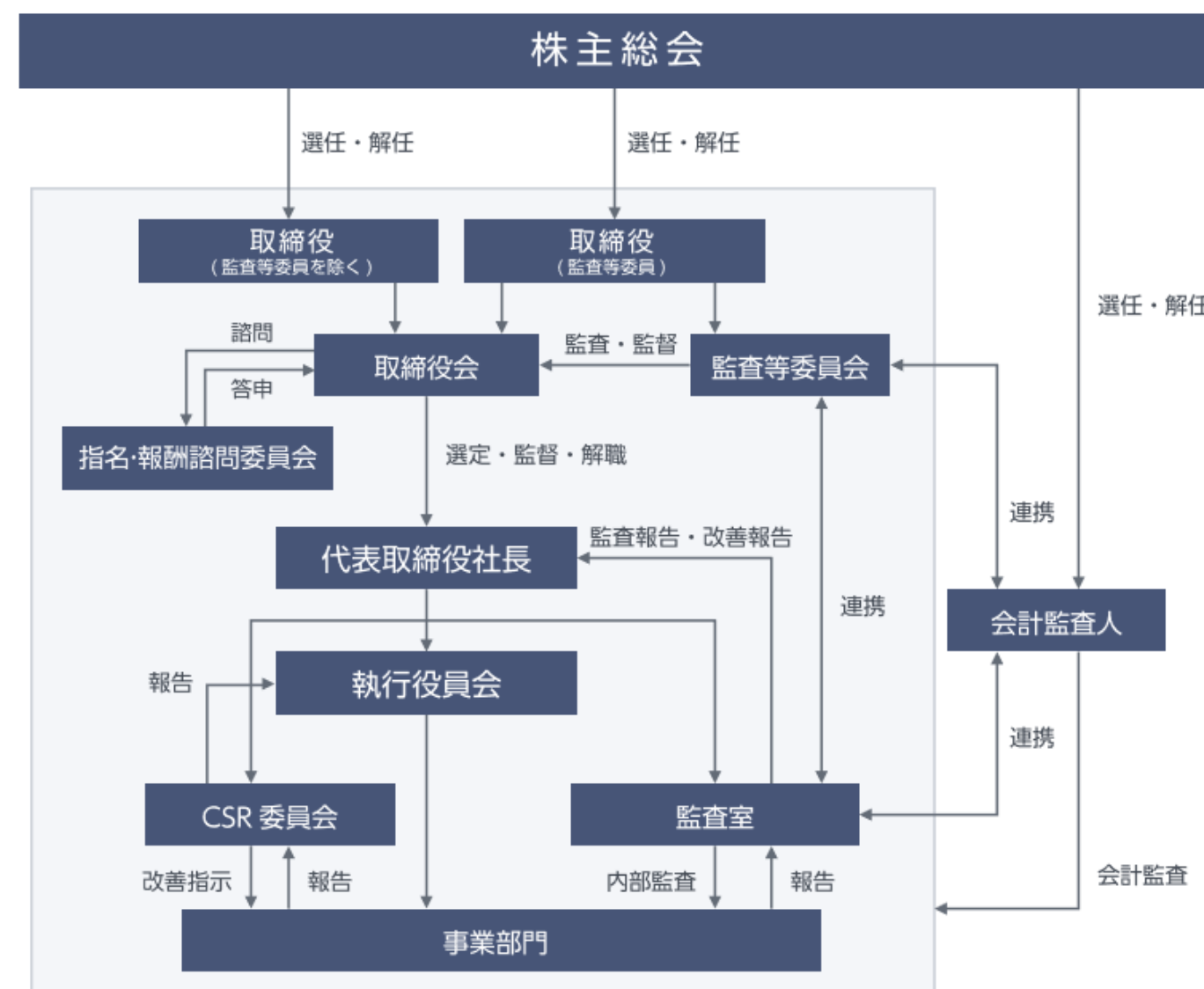
■ リスク管理の推進

「リスク管理方針」「リスク管理規程」に基づき、CSR委員会において各部門が有するリスクの把握、分析、評価を行い、適切な対策を実施しております。不測の事態を想定した「緊急事態対応手順」を定め、不測の事態が発生した場合には迅速な対応を行い、損害を極小化する体制を構築・運用しております。

■ 内部監査

監査室は、「総合内部監査規程」に基づき内部監査を実施し、その年度計画および結果を代表取締役社長及び監査等委員会に報告しております。

コーポレートガバナンス体制図



ニイタカの SDGs マッピング 開発・販売コンセプト「三方良し」と SDGs

当社製品は、洗浄剤原料となる油脂や資材などの調達、事業活動に伴う温室効果ガスや化学物質の取り扱い、製品使用後の包装資材の廃棄など、バリューチェーンの各段階において、持続可能性に影響を与えています。

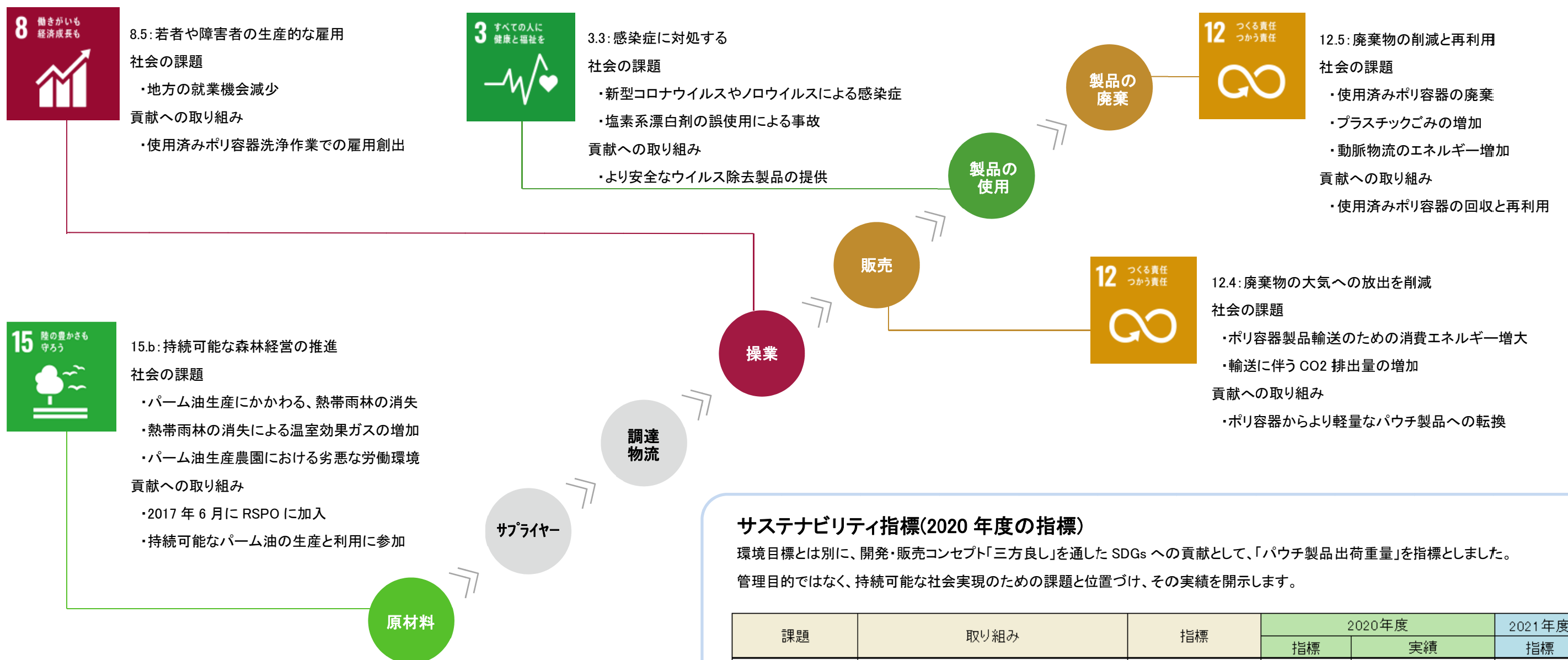
一方で、当社は製品開発・販売のコンセプトとして「三方良し」に取り組んできました。「三方良し」とは、「買い手(販売店・ユーザー)良し」「世間(社会・環境)良し」「売り手(当社)良し」を表しています。品質が良いということだけでなく、お客様が求めるスピードで、付加価値があり差別化できる、コスト優位性のある製品・サービスの提供に努めてきました。

当社は「三方良し」の精神の延長線上に、社会の課題と SDGs が定めるゴールへの取り組みがあると考えています。その代表例が、使用後のごみ排出量の削減を実現できるパウチ製品です。

サステナビリティ指標であるパウチ製品出荷重量は、その指標を達成しました。

また、6 ページに記載しております環境目標においても、生産活動に伴い発生する廃棄物量の削減を達成しました。

当社事業活動のバリューチェーンと社会の課題、それらを解決するための取り組みは以下の通りです。いずれの取り組みも、「三方良し」の精神のもと SDGs のゴールに貢献できると考えています。



サステナビリティ指標(2020 年度の指標)

環境目標とは別に、開発・販売コンセプト「三方良し」を通じた SDGs への貢献として、「パウチ製品出荷重量」を指標としました。管理目的ではなく、持続可能な社会実現のための課題と位置づけ、その実績を開示します。

課題	取り組み	指標	2020年度		2021年度
			指標	実績	指標
12 つくる責任 つかう責任	ポリ容器からより軽量なパウチ製品への転換	パウチ製品出荷重量	2,383 t	1,973t (2019/4~2020/3)	2,383t

ニイタカと SDGs 当社のサステナブル活動

当社は 1963 年の設立より、一貫して環境に配慮したモノづくりを行い、高品質・高使用価値の製品・サービスの提供に努め、お客様第一に徹してまいりました。また、企業への社会的責任遂行要請が高まっており、コンプライアンスや社会貢献への取り組みが重要となっております。中でも、環境問題が深刻化しており、当社もこの問題に真剣に取り組んでおります。

以下に示す図は、当社が今まで取り組んできた活動を、環境(E)、社会(S)、コーポレートガバナンス(G)に区分し、SDGs ゴールとの関係性を表したものです。

社会課題

具体的な取り組み

SDGs ゴール

環境への配慮



- ・エネルギー使用量の管理
- ・太陽光発電による再生エネルギーの利用
- ・操業による廃棄物排出の削減
- ・排水管理(規制値の順守)
- ・環境取組みの年間報告
- ・FSC 認証コピー紙の使用
- ・環境配慮製品(パウチ製品、詰め替え用ボトル)
- ・資源の再利用(ポリ容器の回収とリユース)
- ・原材料の乱獲防止(RSPO 認証の原料調達)
- ・原料購入先の選定(環境配慮先からの調達)
- ・物流手段の選定(モーダルシフトへの移行)



社会問題への対応



- ・人材育成(女性管理職の比率 UP)
- ・職場環境整備(在宅勤務、時短勤務、産休育休制度)
- ・従業員のケア(健康診断、心の相談室)
- ・社会貢献(被災地支援、人権団体への寄付)
- ・感染症への対応製品(アルコール製剤、手洗い石けん)



コーポレートガバナンス



- ・リスク管理の推進
- ・内部通報制度
- ・内部監査





一対の半円状の曲線は、豊かな自然に恵まれた地球（グリーンは大地、ブルーは大海原）とそこに生きる人を示しています。
これは、当社の基本姿勢である自然と人間との共生を表しています。

[本報告書に関するお問い合わせ先]

「環境社会報告書 2021」2021 年 9 月発行 株式会社ニイタカ 発行責任者：加藤貴志
〒532-8560 大阪市淀川区新高 1-8-10 TEL:06-6391-3266 FAX:06-6395-2536